



弥生時代のムラ

# 江上A遺跡

2008年2月

富山県埋蔵文化財センター

The background of the page is a repeating pattern of small, light-colored drawings of archaeological artifacts, including various pottery vessels, wooden tools, and human figures, arranged in a grid-like fashion.

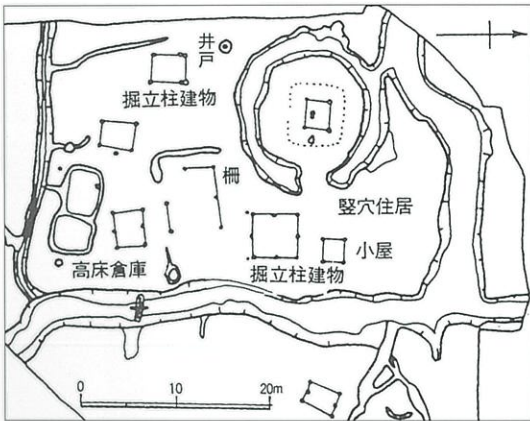
## 目次

弥生時代のムラ 江上A遺跡	1
いろいろな木製品	3
稲作りの道具	6
玉つくりのムラ 江上A遺跡	8
豊富な弥生土器	9

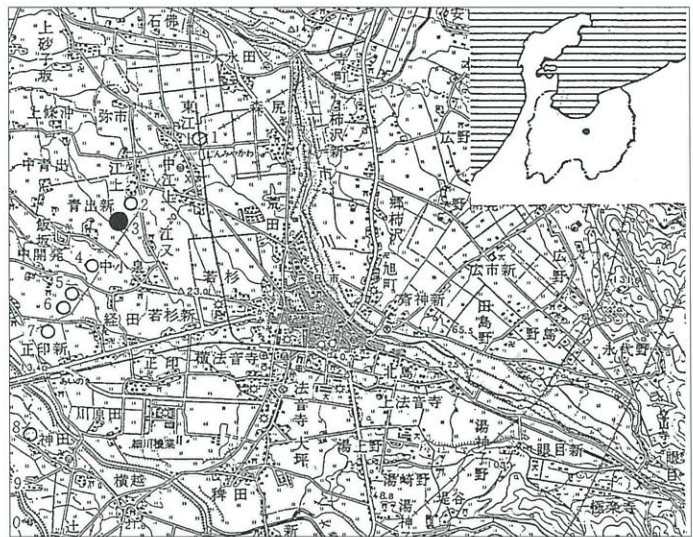
## 弥生時代のムラ 江上A遺跡

江上A遺跡は、1979年に北陸自動車道建設に先立つ発掘調査により弥生時代後期の集落跡と確認されました。周辺には、同時代の水田跡と考えられる中小泉遺跡や方形周溝墓が見つかった飯坂遺跡などがあります。また、いくつかの集落遺跡（正印新遺跡・江上B遺跡）が営まれ、互いに交流するなど、この地域の弥生時代集落の成り立ちや生活の様子をうかがい知ることができました。

江上弥生集落は東側と北側に幅5mの大溝、南側に幅0.5mほどの溝がめぐらされています。また、東側の大溝には2枚の板を合わせた板橋が架けられていました。この約50m四方の溝で囲まれた中に幅3mの円形の溝をもつ大きな住居1棟を中心として高床倉庫2棟、そのほかの建物4棟、柵、井戸などがみつかりました。



江上A遺跡の建物



遺跡位置図



遺跡全景 北より

このような建物構成が弥生ムラの姿なのかもしれません。

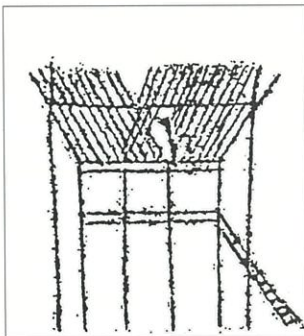
江上A遺跡が立地する標高約15mのこのあたりは、上市川扇状地の湧水地帯です。この湧水を利用して水田を作り生活していました。集落をめぐる溝や住居の溝からは、土器とともに大量の木製品（約5,600点）が発見され、中でも用途がわかる約400点のいろいろな種類の農耕具・生活用具は当時の様子を物語ってくれます。



竪穴住居



溝にかけられた橋



銅鐻に描かれた高床倉庫



高床建物のはしご



遺跡のようす 東から



井戸のようす

## いろいろな木製品

狩猟・漁労具では、弓、鏃形木器、たも網の柄、櫂など。工具類には、木材を加工するための鉄斧柄、刀子柄、火をおこすための火きり臼、火きり杵。容器類では、鉢、脚付鉢、高坏脚部、桶、これらの蓋か底板、杓子、籠、器台などです。



ヒョウタンの出土状況



たくさんの木製品や土器の出土状況



たてあな  
竪穴住居の周溝の木製品出土状況

機織具では紡錘車、編板、糸巻、椅子、矢羽状木器。楽器では琴柱があります。米の収穫を祝って琴を奏でたのでしょうか。

建材などでは、加工された棒材、板材、柱、食料などを貯蔵した高床建物のはしご、井戸筒などがあり生活用品を含めて多種多様の製品・未成品が発見されています。

当時は、鉄製の斧がありました。大陸からもたらされた鉄製品は貴重なものでした。木などを加工するには石の斧もまた大事な道具でした。



かめ  
甕の出土状況



糸巻きの出土状況



つば  
壺の出土状況



か  
權の出土状況



溝からの木製品出土状況



火きり臼の出土状況



く  
鎌の出土状況



脚付容器の出土状況



鋤の出土状況



鋤の出土状況



鋤の出土状況



鋤と柄の出土状況



鋤の泥除けの出土状況



鋤の出土状況



鋤の出土状況

## 稲作りの道具

農耕具は特にたくさん見つかりましたが、土を起こす鍬、鋤、土をならすえぶり、稲の穂を摘むための石包丁や木製穂摘鎌、脱穀をする大型の臼、堅杵があります。

弥生時代には全体が木でできたものが用いられ、カシなどの粘りがあり、硬い材質が使用されました。鍬は柄と身を組合せたもので、泥除け板が装着される例がみられました。このほか、炭化米、ウメ、モモ、ウリの種子、栽培し、利用していたヒョウタンの実や種子などが見つかりました。



みつかった炭化米



鏃  
又鍬



復元した農耕具



みつかったモモの種



鍬と柄



ほつみかま  
木製穂摘鎌



いろいろな形の鍬先





まぐつき ようき  
脚付容器



みつかった編み物



たも網の柄



おの 斧の柄



うす 火きり臼と火きり杵



こし 琴柱

うす 臼



ぞくがた 鎌形木器



やばね 矢羽状木器と栓状木器

## 玉づくりのムラ 江上A遺跡

集落からは、勾玉・管玉の未成品や原石、加工用の磨石(敲石)、砥石がたくさん見つかり、玉づくりをおこなっていたことがわかりました。ヒスイ・蛇紋岩・滑石で勾玉を、碧玉・鉄石英で管玉、水晶で小玉を作っていました。このほかに青色のガラス玉が1点出土しています。

さらに注目されたのは、勾玉や管玉の穿孔に使用したとされる鳴子状木器でした。このような玉づくりに関係した木製品の発見は初めてのことです。



なるこ  
鳴子状木器と玉類



といし  
砥石とたたき石



弓と鳴子状木器



まがたま くだたま  
作りかけの勾玉と管玉

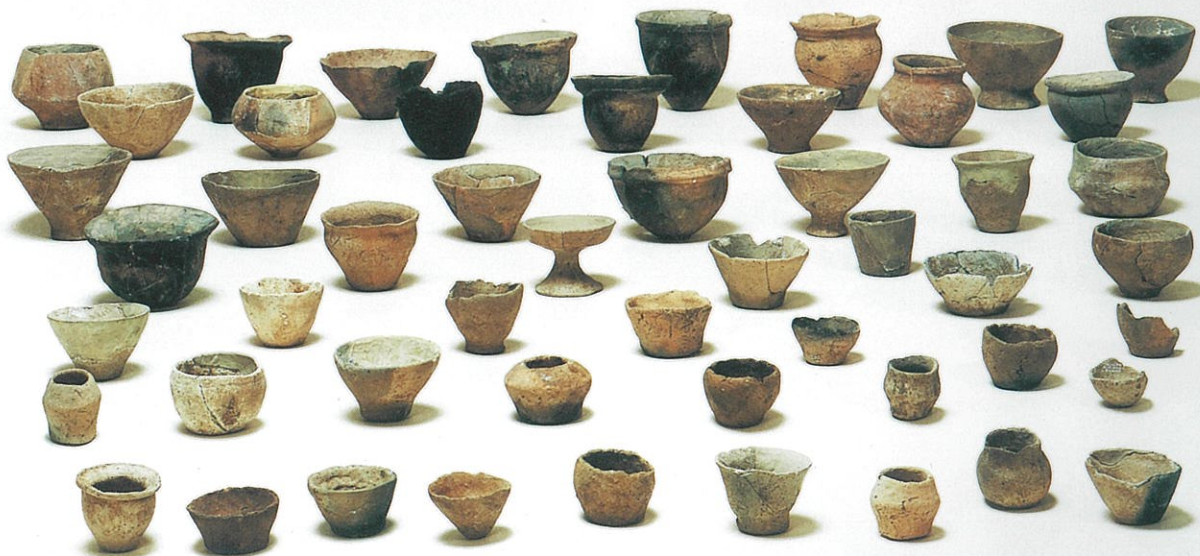
## 豊富な弥生土器

土器は、大量に出土しており、壺、甕、高坏、器台、浅鉢、蓋、小型土器などが数多く復元され、各器種が豊富にみられます。また壺、高坏、器台などは、表面をていねいに磨き、赤彩されるものもあります。壺、甕、鉢、高坏をかたどった小型土器は江上ムラの祭祀に使われたと考えられます。

このような江上A遺跡の多種多様な出土遺物は、稲作を基盤として、村で玉づくりをおこなう北陸地方の弥生時代後期の集落の様相を明かにした富山県を代表する出土品です。このことが、これまでの弥生時代集落のイメージを大きく変えることとなり、いっそう弥生時代の暮らしへの理解が深まりました。



いろいろな形の弥生土器



お祭りに使われた小型土器



たかつき  
高坏



高坏



きだい  
器台



器台



小型土器(鉢・高坏)



たいつきつば  
台付壺



つば  
壺



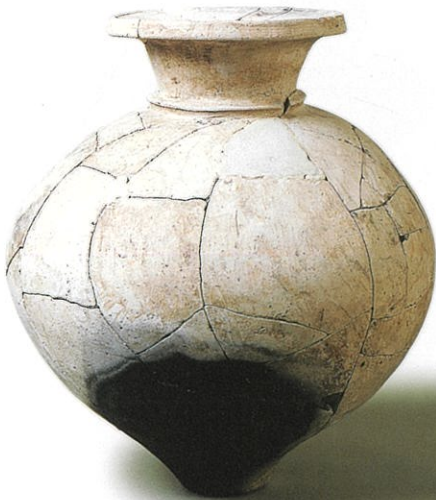
壺



台付壺



ながびつぼ  
長首壺



壺



東海地方の形の壺



壺



壺



きよしもん  
鋸歯文の壺



長首壺



穴あき壺



鉢



ふた  
蓋



かめ  
穴あき甕



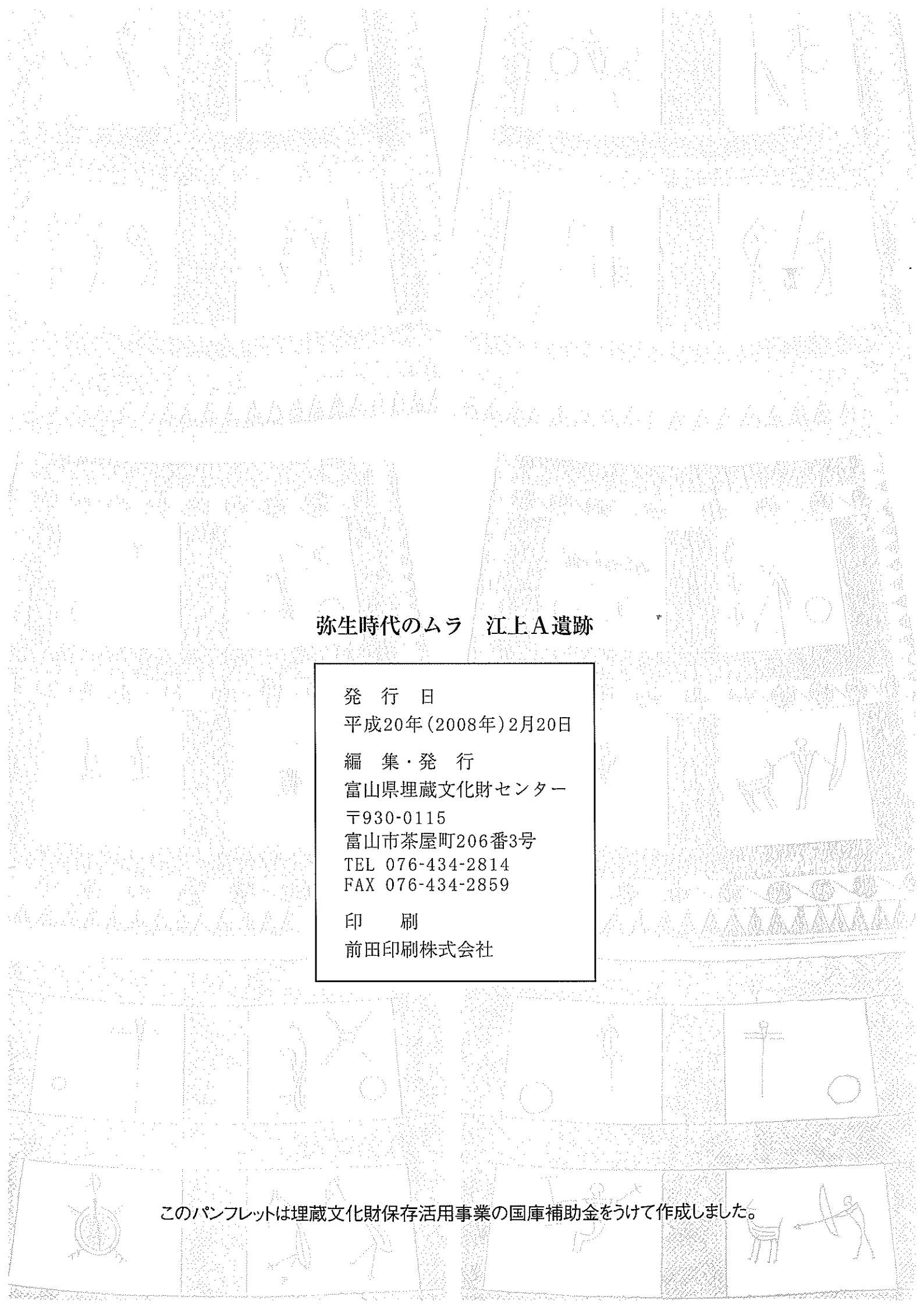
かめ  
台付甕



甕



甕



弥生時代のムラ 江上A遺跡

発行日

平成20年(2008年)2月20日

編集・発行

富山県埋蔵文化財センター

〒930-0115

富山市茶屋町206番3号

TEL 076-434-2814

FAX 076-434-2859

印刷

前田印刷株式会社

このパンフレットは埋蔵文化財保存活用事業の国庫補助金をうけて作成しました。

